



海外ニュース

米出版社の上半期利益減少

アメリカ市場で上場している出版社の営業利益率の平均値は、1998年前半6ヶ月で下落した。イギリス資本の PENGUIN およびイギリス-オランダのコングロマリット REED ELSEVIER もこれに含まれる。アメリカの情報誌 *Book Publishing Report* が挙げた14社の1998年前半6ヶ月の平均営業利益率は、1997年前半6ヶ月の12.2%から11.4%に下落した。

この分析はほとんどがアメリカの出版社に関するものだが、ヨーロッパ資本の PENGUIN、REED ELSEVIER、WOLTERS KLUWER も含まれている。この半年間の PENGUIN と REED ELSEVIER の利益率も下がっており、REED ELSEVIER では30.1%から26.3%へ、PENGUIN では8.8%から6.7%へと、それぞれ1997年前半にくらべて1998年前半は下落している。WOLTERS KLUWER の利益率は21.5%から22.8%へ上昇した。

1998年前半、HOUGHTON MIFFLIN、SIMON & SCHUSTER、HARCOURT BRACE などの教育書出版社の営業損失は増加した。教育書出版社の場合、通常一年の前半には営業損失を出すものなのだが、ADDISON WESLEY LONGMAN と McGRAW-HILL の両社は損失を減らしている。AWL の営業損失は、昨年の4,990万ドル(3,100万ポンド)に比べ、3,260

万ドル(2,000万ポンド)と、McGRAW-HILL の損失も、昨年の830万ドル(500万ポンド)に比べ430万ドル(270万ポンド)と、それぞれ減少した。

今回の調査全体を見ると、14社中8社で営業利益の改善がみとめられた。これら8社の売上高総計は、前年同期比8.3%アップの117億ドル(73億ポンド)、営業利益は1.5%アップの13億ドル(8億ポンド)であった。

HODDER HEADLINE、BLOOMSBURY、CASSELL など比較すべきイギリスの出版社のほとんどが前半6ヶ月の数字を出していないため、同様の予測をたてるのは今のところできないが、1997年の営業利益率は、HODDER HEADLINE が9.5%、BLOOMSBURY が13.6%、CASSELL が2%以下であった。

Book Publishing Report の調査では、1998年6月末で会計年度が終了した6社のなかで、営業利益率を改善できなかったのはREADER'S DIGESTのみで、同社の利益率は前年度の9.5%から2.3%へと下落した。SCHOLASTIC と HARPER COLLINS は営業不振だった1997年に比べ営業利益率を倍増させた。最も利益率を上昇させた出版社はJOHN WILEYで、昨年の8.1%に比べて、今年は13.3%と急増させた。

THE BOOKSELLER/SEPTEMBER 4, 1998

目次

海外ニュース.....1・2	文化厚生委員会だより.....3	川柳、九九、英語の規則.....6・7
うちの会社.....2	パソコン外論考(其12).....4	広告.....8
	出版文化史遺選③.....5	

大規模 M & A 依然盛況

1998年前半6ヶ月間で、アメリカの主要出版社の間で交わされた合併および買収にかかった金額の合計は85億ドル(52億ポンド)にもおよび、1997年一年間での金額をはるかに超えてしまった。

BERTELSMANN による RANDOM HOUSE 買収と、SIMON & SCHUSTER による同社学術書部門の PEARSON への売却の二件が、「何でも起こり得る」という風潮を生み出した。一般書出版社が被害を受けることが増えているにもかかわらず、最大規模の取引は専門書出版社の世界で行われた。

WOLTERS KLUWER は WAVERLY (LIPPINCOTT-RAVEN との関連)のために3億7,500万ドル(2億3,400万ポンド)、科学系出版社 PLENUM の為に2億5,800万ドル(1億6,100万ポンド)支払った。TIMES MIRROR が MATTHEW BENDER と SHEPARD を REED に売却した際には、REED と WOLTERS KLUWER 間のライバル関係の恩恵をこうむったことになる。WK が BENDER 買収に興味を示したことで、買収金額は16億ドル(10億ポンド)にまで跳ね上がったのだ。

HARCOURT が医学出版社 MOSBY を4億1,500万ドル(2億6,000万ポンド)で買収したことで、同社は医学出版の世界で驚異的な力を持つことになった。

現在話題になっているのは、MUSE, HICKS があとどれくらいの間 MACMILLAN を保持するののかということと、GOLDEN BOOKS FAMILY ENTERTAINMENT と READER'S DIGEST (悪化している利益率を改善するための全社改革について最近公表した)にかかわる憶測が増していることである。

これらの風潮はいまだ止むことを知らず、フランスの巨大メディア会社 HACHETTE は最近イギリスの ORION を買収した。これは英語圏市場、特にアメリカへの進出をもくろむ同社の戦略の一環なのである。

THE BOOKSELLER/SEPTEMBER 4, 1998

お詫びと訂正

9月号「うちの会社」記事中に校正ミスがありました。お詫び申し上げますと共に、以下の通りに訂正させていただきます。

左段9行目

〈誤〉 …… 共通の話題は ……

〈正〉 …… 共通の課題は ……

(会報委員会)

うちの会社

三洋出版貿易株式会社

一九五六年に設立され、本年八月より四十四期を迎えております。当社は二つの顔を持っております。貴方がもし、特に化学分野の専門家の方々に「三洋をご存じですか」とお聞きになれば、きっと「化学文献・データ集を扱っている会社」と返答されることでしょう。一方、どこかのホテルの料理長さんに同じ事をお聞きになれば、きっと「料理の専門書籍を扱っている」と言う様な返答をされることと思います。幸い設立以来多くのお客様に恵まれ、時代の変遷と共に色々な変化はあったもののお客様にご指導戴き無事、創立者の遺志である「より多くの専門家の方々に海外の良書を

お届けする。」と言う初志を守らせて戴いております。

現在当社は三つ目の顔としての分野を、人類の未来を左右することにもなる分野、即ち「環境安全・労働安全」の分野に絞りさまざまな営業活動をおこなっております。この分野での新商品として富士通 FKY との提携で販売開始したカナダ、エイトリオン社のケムメイト(化学安全ドキュメント管理ソフト)、及び当社が販売代理店となっている米国、マイクロメディックス社の化学物質総合管理データベースがあります。今後も「この分野に三洋あり」とお客様から信頼戴ける会社として貢献していきたいと考えております。

(狩野 和功)

第89回 72会ゴルフコンペ

多摩カントリークラブ 1998. 9. 10 (木)

天候は晴、気温も上がり、久しぶりの暑い夏日の中でのコンペは、14名の参加を得て、南多摩丘陵に位置する丘陵コース多摩カントリークラブで行われました。午前中は寧ろ爽やかな青空でのプレイ、午後になると風も無く蒸し暑い中での体力勝負の趣となりました。

優勝は体力、若さ発揮の初参加常住さん(丸善)。勿論ゴルフも好調で、「優勝したら、メンバーに恵まれたと言うんだよ」との同組鶴さん(東亜ブック)の言にも、却ってリラックスされたのか、綺麗なフォームからの力強いスウィング、飛距離も伸びて美事なプレイでした。

2位には、初参加ながら、「前日は飲みに行った」、「80台は久しぶりに出た」と余裕のコメントの田中さん(医学書院)。実力通りの素晴らしいゴルフを展開、ベストグロも併せて獲得されました。3位は宮川さん(丸善)。好成績を目指したが、こちらは「メンバーに恵まれ過ぎ

た」とか言いつつも立派な成績でした。久しぶり参加の東條さん(OUP)が4位。天候に恵まれ良かったとのコメント。楽しくラウンドされてるようでした。

ゴルフの後の楽しみの一つは、冷たいビールで喉を潤しながらのパーティ。入賞の方々、斉藤さん(UPS)、鶴さん(東亜ブック)等、活躍の方達のユーモア溢れるスピーチが続き、和気あいあい談笑の内に再開となりました。

成績表		G	HC	NET
優勝	常住真姿美(丸善)	102	30	72
2位	田中泰介(医学書院)	89	14	75
3位	宮川 修(丸善)	107	25	82
4位	東條純吉(OUP)	108	25	83
5位	西山久吉(西山洋書)	99	13	86
ベストグロス	田中泰介(医学書院)	G89		
ドラコン	斎田利幸(三善) 川原孝人(UPS)			
	西山久吉(西山洋書)			
ニアピン	池田篤治(極東書店) 村山新吾(ゲーテ書房)			

(H. N. 記)

釣り同好会 大あじ釣り大会

1998. 10. 3 (土) 晴れ

今回は横須賀・観音崎沖で「大あじ」をねらう。

参加者はベテラン、初心者を含めて14名。10月3日(土)午前8時過ぎに走水港より松栄丸で出船。真っ黒に日焼けした船員に「大あじ」の釣り方、エサの付け方等々ていねいに指示を受け、一同元気いっぱい漁場へ向う。

雲ひとつない晴天。漁場へは15分程で到着。

潮の流れは早く、水深70メートルで一同当りを待つ。早速川原さん(UPS)に当りが来る。40センチ大の大あじ上る。20年振りの海釣りとか。本人はビギナーズ・ラックと云われるが、ベテラン顔負けである。

同じポイントで筆者にやっと2匹目の当りが来た。ダメダメゆっくり上げないと外れるよ、と船頭に注意され乍らやっとタモに「大あじ」が収まる。この2匹で「大あじ」は終り。次に別のポイントで「小あじ」をねらうが、仲々当りが来ない。プロの船頭でさえ「大あじ」2匹。天気には最高に恵まれたが、魚には今いち。アジは予想外の釣果だがサバはそこそこ釣れた。

成績は全員で釣れたアジの大きさを計測して、順位を決め、結果は下記の通り。次回に大漁を期待したい。

成績

優勝	鶴 三郎(東亜ブック)
2位	川原(UPS)
3位	鶴 竜次(東亜ブック)
4位	保科(大洋図書)
5位	今井(洋販)
6位	中村(大洋交易)

アブラの乗ったサバの塩焼きはとても美味。大あじのさしみも最高でした。 鶴 三郎(東亜ブック) 記



パソコン外論考 (其 12)

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆はまっちゃった! / When I fall in Love.

季文子三思而後行、子聞之曰、再斯可矣、

Chi Wen Tzu always thought three times before taking action. When the Master was told of this, he commented, 'Twice is quite enough.'

(論語/公冶長・Confucius; The Analects/Book V)

【超拙意訳；季文子（孔子よりは一代前代の政治外交官）は何事につけても慎重な人であった。例えば、訪問先の国の君主が病気であると聞くと、三度も熟慮して、「会葬」の準備までして彼の国（晋）に出兵した。ってな、エピソードを聞いて、先生が批評をした。「そんなぁことは、二度も考えれば十分なんじゃないかい」】

【外注；朱子の新注の説によっています。古注では、いわゆる「三思」のところを肯定的解釈しています】

今号では、2バイト系文字では、世界初の「78JIS」と「83JIS」とに於ける漢字表記やプリンターでの印字の問題、例えば「楨」「楨」、「堯」「堯」、「藪」とか「鶯」などを取り上げてみたいと思ったのですが、最新のOSおよびワープロソフトとプリンターとの関連をチェックが未完成、後日に報告をと存じます。乞御期待。

ということで、我が愛するBay Starsの「日本一」まであと1勝となったところです。で、横浜中華街のどの店で貸切り「祝賀パーティ」をやるかと検討中の最中でした。この38年振り、我が生涯の中では二度とないと断言できるパーティの夢を、たった「4文字の漢字」問題で打ち砕かれました。

悪夢のような出来事は、現在作成中の月刊会報の中に小生の記した1文の1行が発端でした。

因に、現在の出版社編集部内でも、編集作業工程の中には、結構パソコンを活用しています。さらに、もちろんこの「パソコン活用の編集デザインプロダクション」も、ごまんとあります。このout-sourcing的な社外編集会社の99%までが、世界の趨勢からはずれましたが、日本では僅かながらshareを保っている林檎マークの機種を使用しています。で、彼等（誤解を伴ってもいいのですが……）は、100%、DOS派とかWin派を毛嫌いでいますね。筆者もその扱いを受けましたので……。

本文64ページ+カラー口絵を8ページの小冊子を、某大手印刷所に依頼しているのです。この印刷所は、要は

「完全版下」（初校・再校等文章の推敲も終り、もう写真とか図版類を入れる箇所のみをブランクにした印画紙）で入稿するわけです。

そこで、この入稿用の完全版下の印字出力紙を作成するところに位置するのが「編集デザイン会社」なのです。

当然のことながら、印刷所に渡す日時が迫りますと、この「編集会社」は、経営的観点から、「泣きに入る」は、「脅し」「恫喝」「無能よばわり」等々なんでもありの世界というのが判明いたしました。

しかも、原稿は、当該会社宛にDOSテキストfile化して圧縮、「通信」でアップロードという手順です。

そこで、問題は、筆者の当該原稿の最終行『すなわち、その精神は『鶴鶴在原』につきまます』にあったのです。

【外注；「鶴鶴在原」（せきれいげんにあり）出典「詩経・常棣」。兄弟が危難に対し互助の精神を持つことの譬】で、初校のネームゲラ出。「件の最終行」はなし。

赤を入れ「件の最終行」を手書きしてFACSIMILEにて返送→編集会社からfileをmailでとの要望→再度fileをupload→数時間後、再校ネームゲラ出→件の最終行は、『すなわち、その精神は『er使□×○』につきまます』→再度赤を入れFACS.にて返送→三校が1時間後にFACS.から吐き出される。件の4文字は『er使△×』ってな具合い→再再度赤、返送（このあたりはもう、意地でしたね）→再再度fileを要望→upload→続いて、原稿をプリントアウトしたものをFACS.で要望→送付→送信エラーが10数回にわたり起る（原因は、先方の社長が、原稿送付終了を待ち切れないで受信回線を切断）→FACS.からは件の『最終行』なしの4校出。

ここで、完全にキレました。曰、「通信回線」による《文字化け》でどうしても、この4字は打ち出せない。お宅のパソコンが古いのでおかしい！某N-serveが変だ！等々弁解。究極には、曰「難しい漢字」を使っても分からないから削除しました。と。言語道断。プチギレ。

この冊子の読者対象は50代以上。「難しい漢字」でも分かるのです。このトラブルの原因は、編集会社のパソコン使いが（昔の写植工、今でもそうだが）『鶴鶴』の2文字を読めない、変換できない、「漢字JISコード」を調べない、ことにつきまます。50歳代の町の小さな写植工房で、この1行を打ってもらい、製版フィルムにストリップを貼ってもらい無事校了。筆者の編集校正専門用語に《文字化け》が、追加されました。以下次号。

明治初期の目録に見る洋書〔3〕

丸善・本の図書館 鈴木陽二

◆明治9年洋書リストにみる輸入の状況(3)

【スペンサー社会進化論の受容】

前回、ダーウィンの生物進化論について略述したが、適者生存、自然淘汰、生存闘争などで象徴されるスペンサーの社会進化論は、明治期において思想界のみならず政治・社会全般にわたってダーウィニズムよりはるかに大きな影響を受けることになった。

前に記したように、明治9年の丸善洋書リストに収録されたハーバート・スペンサーの著作は10点で、しかもこの年までに刊行された主要な著作がほぼ網羅されている。そこには“Social Statics” 1950 (『社会静学』)、“Education” 1961 (『教育論』)、“The Study of Sociology” 1873 (『社会学研究』)などのほかに、畢生の大作“A System of Synthetic Philosophy” (『綜合哲学体系』)の中では既刊分の“First Principles” 1862 (『第一原理』)、“The Principles of Biology” 1864-67 (『生物学原理』)、“The Principles of Psychology” 1870-72 (『心理学原理』)が含まれている。

『綜合哲学体系』全10巻は1896(明治29年)に完結するが、明治35年に内田魯庵が『学鏡』誌上に発表したアンケート「十九世紀名著選」では第3位という高位の得票を獲得したほど評価が高かった。

スペンサーの進化論思想は19世紀後半のアメリカでブームを巻き起こした。日本におけるスペンサー主義は、この時代のアメリカで学んだ留学生やお雇いアメリカ人教師によって移植されることになった。日本では明治7～8年頃からスペンサーの著作が読まれるようになったが、日本人の著作に現れて多方面に影響を及ぼすようになったのは明治10年以後であったという(麻生義輝『近世日本哲学史』)。

後年東京帝国大学総長や文部大臣の要職を歴任した外山正一はミシガン大学留学中にスペンサーの進化論に心酔し、明治9年に東京開成学校の教授となり授業でもスペンサーの著書を利用して講読するなど、その思想の日本における最初の紹介者として普及に尽力した。金子堅太郎は伊藤博文の秘書官として明治憲法の起草に従事したり、明治の政界の重鎮として活躍した人物であるが、

かれはハーバード大学留学中にスペンサーの思想に接し、後に面談して日本憲法について意見を求めている。留学生ではないが、後年文部大臣を務めた森有礼は駐米代理公使の時代にスペンサーの思想に出会って傾倒し、明治6年に代理公使を解任されイギリスを経由して帰国する途路日本人として始めてスペンサーを訪れ、近代国家としての日本の諸制度構築について意見を聴取している。帰国後彼は明六社を設立して、福沢諭吉らと西洋思想の啓蒙に努めたが、おそらくスペンサーの伝播にもあずかって力があつたことと思う。

お雇い外国人の場合、ダーウィンの生物進化論を普及させたモースの推薦で、アーネスト・フランシスコ・フェノロサが明治11年に東京大学文学部教授として招聘された。フェノロサもスペンサー思想の信奉者で、赴任後早々スペンサーの『社会学原理』を祖述した「宗教論」を講義している。彼は日本における社会進化論の扶植には特に大きな力があつたといえる。ちなみに、哲学・政治学・理財学(経済学)の教授で迎えられたフェノロサは、日本美術の研究者・振興者として著名で、日本の美術教育制度確立のため明治政府の顧問として活躍し、岡倉天心とともに日本美術学校の設立に関係した。

日本におけるスペンサーの社会進化論の受容とその思想の影響は多岐多様であつて、筆者には到底それをたどる力はないので深入りしないが、その多様性の一端だけを紹介しておきたい。

自由民権運動は明治初期の日本における最大の政治思想・運動で、憲法制定・国会開設への原動力となつたが、その運動は社会進化論に絶大な影響を受けて沸騰した。スペンサー思想はミルの自由主義思想と併せて日本の民主主義の萌芽・形成の上で大きな原動力になつた。ところが一方で、明治10年に発足した東京大学の初代総理に就任した加藤弘之が社会進化論に触発されて著した『人権新説』(明治15年)に代表されるように、スペンサーの進化論が国家権力擁護論(国権論)の構築に利用され、日本の自由主義を抑圧する理論的武器として摂取された。〔参照図書：山下重一『スペンサーと日本近代』/麻生義輝『近世日本哲学史』〕

川柳、九九、英語の規則

島岡 丘

和歌、俳句、川柳など、繰り返したくなる心地よいリズムを持っていることを実感したのは、高校生の時、島村藤村作、「小諸なる古城のほとり…」の一節を国語の時間に接したときである。一人で通学するときに、何度も口ずさんで、なんとなく充実した詩的感情に浸ったものである。

一方、小学生の時、算数の時間に、反復し丸飲みした掛け算の九九を思い出す。九九を口調よく繰り返しているうちに、掛け算の規則を一人で覚えてしまった。アメリカなどに日本から留学した高校生がクラスであるいは学年で、算数は一番であるという話をよく聞くが、これは九九を暗誦していて、それを活用できるようになっているからではないかと思う。

普通の英語のクラスでも、口調のよい日本語として、川柳を取り入れることはできないだろうか。私の経験では、川柳を取り入れると、学生がリラックスし生き生きしてくるようだ。たとえば、

「今日は何頁から？」というよりも

さてきょうは どこからはじめる 再確認
のように言えば調子がでるし、学生のほうも、

10頁 5行目からの 開始です
と川柳で応答するかもしれない。

「誰々君、声を出してよみなさい。」というよりも

音読は 誰々君から 始めよう
と口調よく指示してみたい。そして、よく読めたことを褒めるときも

ネイティブの 英語のように すらすらね
というほうが、教室の雰囲気よくなる。また、意味解釈のときも、

その文が どういう意味か 考えよう
と口調よく言ってみるのもよいだろう。

算数のクラスの話に戻るが、掛け算の九九の規則をおぼえやすくした先輩に脱帽したい。その九九の規則を口に出して言う場合に、隠れた工夫があることを、日本数学学会の会長だった松尾先生から伺ったのでご紹介したい。それは「が」を用いるのは1桁の場合で、2桁になると「が」を用いないということである。では実例をあげて検討してみよう。

まず、2の段。2の段では $2 \times 2 \sim 4$ までは「が」を

つけるが、 2×5 以上になると答えが2桁になるので「が」をつけない。以下の例を参照（○印しが正用法、×印しが誤用を示す）。

$2 \times 2 = 4$ ○「ににん が し」

×「ににん し」

$2 \times 3 = 6$ ○「にさん が ろく」

×「にさん ろく」

$2 \times 4 = 8$ ○「にし が はち」

×「にし はち」

$2 \times 5 = 10$ ×「にご が じゅう」

○「にご じゅう」

$2 \times 6 = 12$ ×「にろく が じゅうに」

○「にろく じゅうに」

$2 \times 7 = 14$ ×「にしち が じゅうし」

○「にしち じゅうし」

$2 \times 8 = 16$ ×「にはち が じゅうろく」

○「にはち じゅうろく」

$2 \times 9 = 18$ ×「にく が じゅうはち」

○「にく じゅうはち」

つまり、「が」は答えが二桁になると途端に消滅する。同様に「が」を用いるのは 3×3 、 4×2 までで、 5×2 以上になると「が」を用いない。9で始めると、どうだろう。

$9 \times 1 = 9$ ○「くいち が く」

×「くいち く」

$9 \times 2 = 18$ ×「くに が じゅうはち」

○「くに じゅうはち」

やはり「が」を用いるか用いないかは1桁か2桁かということになる。その理由はこのほうが口調がよいからである。口調がよければ覚えやすいことでもある。これも聞いた話であるが、イタリアに行ったある日本人がパーティの余興で、日本語を何か話せといわれて、仕方なく九九を全部言ったそうだが、これがたいへん受けがたい。

俳句は季語があり、作るのに苦勞がいるが、川柳は5-7-5の音節数さえ揃っていさえすればよいというふうにも考えることもできる。音節数を揃えることはそれ程むずかしいことはなく、日本語を母語としているわれわれ

は、誰でも自由に作ることができる。正式の川柳は、作品を特定の用紙に文字の大小とバランスを考えながら筆書きするそうであるが、私はどの川柳の流派に属しているわけではないので、音節数だけ5-7-5であれば(多少の字余りは認める)それでよしとする。

英語の特徴を川柳でとらえると、ずいぶん学習も楽しく気楽に覚えられ、しかも定着するという仮説を私は長い間抱いていたが、その仮説の実証する機会が訪れた。4月のNHK総合テレビ「土曜特集：おすすめ語学パリエティ」(午後7時半～8時45分)で川柳を3つ、4つ披露したが、その後、洋販出版より出版した、「川柳で流暢英語のコツを詠む—<川柳式>英語の発音マスター法」(1998年8月)には、およそ百種の川柳を掲載した。本年9月にMainichi Weeklyのテレビ番組で紹介する機会があったので、ご覧になった方もおられるかもしれない。

川柳百種という和多いようだが、それだけの英語の音声の体系に関する規則は存在しているのである。しかし、英語を母語として使い慣れている人達はあるいは気がつかないのかもしれない。教室で英語を教えていると、生徒の英語の発音は標準的な英語との間に一定の規則的なずれを感じるが、それらをまとめると百ほどになるであろう。

去年、Daniel Jones 発音辞典の編者の Peter Roach 氏吹き込みのテープをつけて同じく洋販出版から、『英語のリズムとレダクション』から出版したとき、10種類100項目の英語発音熟達度自己判定の資料をつけたのだが、今回12種としたのは口慣らしのウォームアップを追加し、母音から二重母音を独立させ、さらに綴り字と発音の規則を扱うなどのため、川柳を以下のように12種類に分けることになった。

- 1 口回しのウォームアップ
- 2 リズムの規則
- 3 強勢アクセントの規則
- 4 音調/イントネーションの規則
- 5 語と語のつながりの規則
- 6 つなぎにおける音声変化の規則
- 7 音節間、音節末の変化規則
- 8 音の脱落の規則
- 9 母音に関する規則
- 10 二重母音に関する規則
- 11 子音に関する規則

12 音・文字規則

ここですべてを例示する余裕はないが、1のウォームアップで英語で唇を丸めて出す音はいくつあるだろうという問いに川柳で答える。

唇を丸める音は 母子十二

母子十二というのは母音が六つ、子音が六つ唇を丸める音があると言う意味である。

英語を読み上げるとき、たとえば、「春が一番いい」にあたる Spring is the best of all. をどこで切ればよいか迷うが、以下のどちらが英語として自然にひびくだろうか。

a) Spring/is/the best/of all.

b) Spring is the/best of/all. 島岡(1998)より普通の調子で言うとき、切れ目を a)方式とするか、それとも b)方式とするかは次の川柳が決め手となる。

英語なら 強弱順で リズミカル

弱い音 強い音の 後につく

a)は文構造に合わせて切れ目を入れているが、実際の英語の口調はb)のように文構造を無視して強勢音節の前に切れ目を入れて読む傾向がある。

英語の発音に関する意識はコミュニケーション重視の英語教育が行われるにつれて、英語の発音についての関心がますます高まってきた。それと同時に英語の発音記号は単語毎についているので、実際の英語の談話を表記できていないと感じ始めてた。むしろ、カタカナを少し変化させることで十分相手に通じさせることができることに気づき始めている(アルク社の月刊 Active English には島岡式カナ表記を付記した英会話を連載中)。上記の文を次のようなカナ表記で示し、そのように発音すると英語らしく発音が出るのではないかと思われるが、試していただきたい。

○ ○ ○ ○ ○ ◎

「|スアインゲゝイズゝサ|ベスゝタゝゝヴァーウ」

1993年に小学館から鳥飼玖美子さんと共著で『リトルスター英絵辞典』を小学館から出版したとき、1500ほどある例文にすべてカナ表記をつけたが、

英文を 自然に読むと カナ通り

という趣旨のことを英語のネイティブからだけでなく、愛読者カードをたくさんいただいた。英語発音習得法の新しい時代に入ったのではないかと思う。

(茨城キリスト教大学教授)

英国マクミラン社・丸善共同企画／ニュー・パルグレイヴ経済学辞典

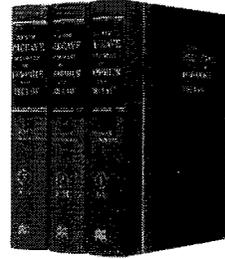
■ニュー・パルグレイヴ経済学と法辞典 全3巻

**The New Palgrave Dictionary of
Economics and the Law 3 Vols.**

Ed. by P. Newman

1998:5. 2,500 p. (ISBN: 0-333-67667-X / MBN: 9741897)

概価 ¥120,000



法と経済学への近年の関心の高まりを受け、『経済学と法辞典』が刊行の運びとなります。すべて書き下ろし論文からなる本辞典を、研究者、実務家、学生の方々にお薦めいたします。

■ニュー・パルグレイヴ経済学大辞典〈背革装〉全4巻

(値下げによりお求めやすくなりました)

The New Palgrave: A dictionary of economics 4 Vols.

Ed. by J. Eatwell, M. Milgate and P. Newman

1988. 3,500 p. (ISBN: 0-935859-10-1 / MBN: 8641262)

『ニュー・パルグレイヴ経済学と法辞典』刊行記念特価¥98,000

ノーベル経済学賞受賞者を含む世界的な経済学者を監修者、執筆者に招いて企画出版され、出版後10年経過した現在も、経済学辞典のスタンダードとして研究者、実務家、学生に広く活用されています。

『経済学と法辞典』『経済学大辞典』セット特価

¥180,000

■ニュー・パルグレイヴ貨幣と金融辞典 全3巻

The New Palgrave Dictionary of Money and Finance 3 Vols.

Ed. by J. Eatwell, M. Milgate and P. Newman

1993. 2,559 p. (ISBN: 0-333-52722-4 / MBN: 9103038)

概価 ¥121,500

複雑さを増していく金融の理論と実務とをカバーする辞典として、高く評価されています。

(Macmillan, GBR)



日本総代理店

<http://www.maruzen.co.jp/>

【本社・日本橋店】〒103-8245 東京都中央区日本橋 2-3-10 ☎(03)3272-7211 振替: 00170-5-5

首都圏店舗=お茶の水・有楽町・内幸町・浜松町・赤坂・渋谷・新宿・府中・北千住・津田沼・柏・取手・土浦

支店・店舗・営業所=千葉・八王子・大宮／札幌・盛岡・仙台・新潟・筑波・横浜・静岡・浜松・名古屋・津

岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄／

ニュージャージー・ロンドン・シンガポール

1998年10月

通巻第377号

洋書輸入協会

編集者 高橋 紘

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本綜合印刷株式会社